

私がなぜ現在の科目を選んだか

「血液内科」

信州大学医学部内科学第2講座
関 口 和

学生時代、『血液内科』には、“難しい”、“不治の病が一杯”、“全然分からない”と感じていました。

研修医になり、身近で癌になる人もいて、腫瘍に対し漠然とした関心がでてきました。そんな時期に血液内科で研修し、大きなリンパ腫の病変が治療で急激に小さくなっていく様子や、白血病患者さんが化学療法や骨髄移植をして元気に退院していく様子を見て、悪性腫瘍であっても治癒を目指せる事実に興味を持ちました。血液内科の指導医の先生には、末梢血や骨髄標本の見方や、各疾患について基本的なことから教えて頂き、忙しかったけれども、非常に楽しく仕事ができました。現在も医師としても人としても尊敬する存在である、第2内科研修時代の指導医であったA先生

は、それまで難しいと思っていた血液内科を身近な存在にし、面白さを教えてくれたと思います。血液内科はじっくり考えて相談しつつ治療をすすめることができ、自分の性格には合っているかな、と思ったことも選んだポイントでもあります。研修を通じて、腫瘍性疾患ではない患者さんの治療にも興味を抱くようになり、そういった患者さんも含め、血液疾患の患者さんの状態、データが一番印象的であり、面白いと思ったということもあります。

現在、二児の母となり、5年ぶりに病棟業務へ復帰し、サポートしてくれている家族と、フル復帰とはいえない体制での病棟業務への復帰につきご承諾いただいた血液内科の先生方には心からの感謝をしております。忘れていること、新しくなっていることと格闘しながら日々を送っており、まだまだ私は未熟者で、勉強しなくてはいけないことが一杯ですが、血液内科学は本当に面白いと思います。A先生のように、とはいかないと思いますが、多くの方々と少しでも血液内科の面白さを分かち合えればいいなあ、と思っています。(北里大平14年卒)

私がなぜ現在の科目を選んだか

「糖尿病・内分泌代謝内科」

信州大学大学院加齢適応医学系加齢病態制御学講座
信州大学医学部附属病院糖尿病・内分泌代謝内科

武 井 真 大

私は平成18年に信州大学を卒業し、信州大学医学部附属病院、諏訪赤十字病院で初期臨床研修を行いました。信州大学での初期研修時に糖尿病・内分泌代謝内科を回りましたが、今後自分が糖尿病や内分泌を専門にすることはしていませんでした。なぜ今の科を選んだかと問われても明確な回答はありません。今思うとあまり深く考えずに飛び込んだような気がします。

内分泌というと「難しい」「地味」とか、糖尿病というと「食事制限」「生活改善」など、漠然としたネガティブ(人によってはポジティブ?)な印象があるかと思います。少なくとも学生時代の自分はそういう印象を持っていました。ポリクリを回ってみても、病態自体がよくわからないままだった記憶があります。

入局して感じたことは、この分野の持つ将来性と新

しさです。私が入局したのが3年前ですが、この短期間で糖尿病治療薬の種類が随分増えました。インスリン製剤の種類や新しいデバイスが何種類も増え、DPP-IV阻害剤、GLP-1受容体作動薬といった新しい作用機序の経口糖尿病薬や注射製剤が登場しました。従来から使用されていた薬剤の用量変更や保険適応拡大も進んでおり、以前の臨床ではできなかった処方が可能となってきています。今後も新しい薬剤が登場する予定であり、日進月歩の世界です。

糖尿病臨床が進歩する一方、内分泌領域も興味深い分野です。「生活習慣の改善をするように」指導をされていた糖尿病の方が、実は内分泌疾患が原因だったという症例をしばしば経験します。原因を突き止め、正確な治療により糖尿病が著しく軽快するのを体験すると非常に充実感を感じます。単に血糖コントロールをするだけでなく、全身を診る姿勢が要求されますが、とてもやりがいのある仕事です。

加速度的に進化する新しい分野です。時代に乗り遅れないようにこれからも医師として臨床、研究に精進していきたいと思っています。

(信大平18年卒)